# 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 27 年 5 月 15 日現在

機関番号: 13901 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2011~2014

課題番号: 23591617

研究課題名(和文)乾癬表皮角化細胞における細胞周期S期亢進を介したエピジェネティクス異常機構の解明

研究課題名(英文)Elucidation of abnormal epigenetic mechanisms through S-phse of the cell cycle in the psoriatic epidermal keratinocytes

#### 研究代表者

杉浦 一充 (SUGIURA, Kazumitsu)

名古屋大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号:70335032

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文): RanBP2とRanGAP1は乾癬皮疹部角化細胞(KC)において核膜に過剰発現し、NLSを有するLEDGFおよびチロシン705リン酸化STAT3の核細胞質間輸送に深く関与している可能性が示唆された。また乾癬皮疹部KC において、MAPK/Erk/1/2と P13K/Akt経路のシグナルがRanBP2とRanGAP1を制御している可能性が示唆された。さらに、KC特異的LEDGFトランスジェニックマウスを作成した。

研究成果の概要(英文): We indicated that RanBP2 and RanGAP1 are overexpressed and that the phosphorylation of S53 in MCM2 is significantly upregulated not only in the spinous layers but also in the basal layers of psoriatic epidermis. We also suggest that RanBP2 and RanGAP1 regulate the intracellular localization of LEDGF and phosphorylated Y705 STAT3 via the P13K/Akt and MAPK /Erk1/2 pathways in our psoriatic model systems of HaCaT cells. These findings suggest that RanBP2 and RanGAP1 may play pivotal roles in the pathogenesis of psoriasis via translocation of LEDGF and phosphorylated Y705 STAT3 into the nucleus in psoriatic KCs Moreover, we created a KC speficif LEDGF transgenic mouse.

研究分野: 皮膚科学

キーワード: 乾癬 \_ 表皮角化細胞 細胞周期 エピジェネティクス LEDGF RanBP2 RanGaP1 トランスジェニック

マウス

### 1.研究開始当初の背景

(1) 乾癬は銀白色の鱗屑をともない境界明 瞭な盛り上がった紅斑が全身に出現する。 乾癬の患者の 90%位がこの症状を呈し、 尋 常性乾癬とよばれる。大きさ、数、形は様々 で、発疹が癒合して大きな病変を作ること もある。できやすい部位は慢性の機械的な 刺激を受けやすい頭部、肘・膝、臀部、下 腿伸側などである。青壮年期に発症するこ とが多く、多発する。発症頻度は人口のお よそ 0.1%と推定されている。昔は日本人 には極めてまれと考えられていたが、徐々 に増加傾向である。白人では人口の 2-3% といわれており頻度の高い皮膚病として知 られている。病因については近年多くの知 見が得られているが、全容解明には至って いない。 乾癬では Th17 細胞、制御性 T 細胞、 Tip-DC、形質細胞様樹状細胞等の炎症細胞か らのサイトカインなどによる表皮角化細胞 (KC)の活性化のほかに、活性化した KC から 炎症細胞へのフィードバックも病態形成に 重要であると考えられていた。乾癬の KC で は、細胞周期 S 期のマーカーである PCNA 等 が高発現している。しかし、この乾癬の KC におけるS期亢進とこの細胞自身の遺伝子発 現制御の相互関係についての分子機構につ いては、ほとんど解析がなされていなかった。

(2)細胞周期 S 期活性化因子かつ、転写補助 因子である Lens epithelium derived growth factor (LEDGF)は、正常表皮の基底層におい ては核に局在し分化に従い細胞質へ局在移 行するが乾癬の KC においては基底層と有棘 層の両層で核内に存在することを発見し、さ らに LEDGF 過剰発現 KC 株は乾癬の KC に類似 する遺伝子発現を示すことを研究代表者ら は報告していた (Sugiura K et al, J Invest Dermatol 2007, Takeichi T, Sugiura K et al, J Invest Dermatol 2010 。 つまり、LEDGF は 乾癬の病態に重要な働きをしていることが 示唆されていた。

(3)ところで LEDGF は核局在シグナル(NLS)を有する。同じく NLS を有する 705 チロシンリン酸化 STAT3 二量体も、正常表皮の基底層においては核に局在し分化に従い細胞質へ同在移行するが、乾癬表皮においては基底層と有棘層の両層で核に局在する。 NLS タンパク質の核細胞質間輸送には、角膜孔複合体(NPC)の構成分子であるヌクレオポリンが重要な役割を担っており、そのひとつであるRan binding protein 2 (RanBP2) は、Ran-GTPase activating protein 1 (RanGAP1)と複合体を形成し、輸送の方向性を決定付けている。

(4) また乾癬 KC においては、上皮成長因子受容体 (EGFR) シグナル伝達の下流にある MAPK/Erk/1/2 と PI3K/Akt 経路の活性化が知られているが、この2つの増殖シグナルと核 細胞質間輸送に関する分子との関連は明らかにされていなかった。

#### 2.研究の目的

(1)LEDGF の核内局在制御の分子機構を解明すること。KC における NLS タンパク質の核細胞質間輸送の変化が、乾癬の病態機構に深く関与しているのではないかと考えた。

(2)LEDGF が生体内で本当に乾癬の病態に関与しているかどうか解明すること。KC 特異的 LEDGF 過剰発現トランスジェニックマウスの 皮膚症状を観察することで解明できると考えた。

## 3. 研究の方法

(1)乾癬患者 10 例(平均年齢 56 歳; 35 歳~78歳)の皮膚組織、および 10 例の正常皮膚組織 (平均年齢 56歳; 16歳~79歳)を用いて以下のそれぞれの抗原に対しての免疫組織化学を実施した。

RanBP2 RanGAP1 705 チロシンリン酸化 STAT3 LEDGF 53 セリンリン酸化 MCM2

(2)培養表皮角化細胞である HaCaT 細胞を用いて免疫細胞化学を実施した。細胞処理条件は以下のように実施した。72 時間血清飢餓の後に、培養液中に血清のみを加えた増殖条件のコントロール群と、血清入り培養液中にMEK1 阻害剤および、PI3 キナーゼ阻害剤または mTOR 阻害剤を単独または同時に添加した阻害剤添加群で比較検討した。以下それぞれの抗原に対しての免疫細胞化学を実施した。

389 リン酸化 70S6K

DNA

RanGAP1

RanBP2

Ki67

LEDGF

705 チロシンリン酸化 STAT3

CDC7

(3)HaCat 細胞の抽出液を用いてウエスタンプロットを実施した。細胞処理条件は以下のように実施した。3 日間血清飢餓の後に、培養液中に血清のみを加えた増殖条件のコントロール群と、血清入り培養液中に MEK1 阻害剤とPI3 キナーゼ阻害剤を同時に添加した群で比較検討した。以下それぞれの抗原に対してのウエスタンブロットを実施した。

RanBP2

RanGAP1

Ran

beta-actin

**LEDGF** 

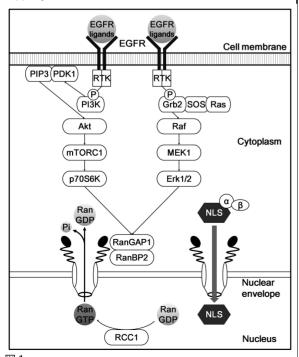
705 チロシンリン酸化 STAT3

CDC7

(4)KC特異的プロモーターを用いたKC特異的 LEDGF 過剰発現トランスジェニックマウスを 作成した。特異的プライマーを作成し、実際 に作成されているかどうか確認をした。週齢 による、皮疹の観察、病理所見の観察を実施 した。

#### 4.研究成果

- (1) RanBP2 と RanGAP1 の皮膚組織 KC での局在について:免疫組織化学で両者は正常皮膚組織では KC の細胞質に局在したが、乾癬皮疹部組織では KC の核辺縁に局在した。
- (2)乾癬 KC における S 期活性化の新規マーカーについて:免疫組織化学で S 期活性化マーカーである 53 セリンリン酸化 MCM2 は正常皮膚 KC に比べて乾癬 KC では著明に染色されていた。乾癬 KC の S 期活性化を確認し、MCM2も活性化されていることが明らかになった。
- (3)HaCat 細胞における LEDGF、705 チロシンリン酸化 STAT3、CDC7 の局在について:免疫細胞化学で3者とも血清存在下では核内に局在していてたが、72 時間血清飢餓で3者とも細胞質に局在した。
- (4) MEK1 阻害剤とPI3キナーゼ阻害剤またはMEK1 阻害剤とmTOR 阻害剤処理による RanBP2と RanGAP1と Ran の発現について: 免疫細胞化学とウエスタンプロットで RanBP2と RanGAP1 は発現が低下した。一方 Ran は発現が低下した。一方 Ran は発現が低下した。MAPK/Erk/1/2とPI3K/Akt 経路により RanBP2と RanGAP1の発現は制御されていることを示唆する結果を得た。



乾癬皮疹部KC内の増殖シグナルと核内移行シグナルの関係」

- (5) MEK1 阻害剤と PI3 キナーゼ阻害剤または MEK1 阻害剤と mTOR 阻害剤処理による LEDGF、 705 チロシンリン酸化 STAT3、CDC7 の局在に ついて: 免疫細胞化学で3者とも細胞質に局 在した。
- (6)(1)~(5)の結果をまとめると、RanBP2 と RanGAP1 は乾癬皮疹部 KC において核膜に過剰発現し、NLS を有する LEDGF およびチロシン 705 リン酸化 STAT3 の核細胞質間輸送に深く関与している可能性が示唆された。また乾癬皮疹部 KC において、MAPK/Erk/1/2 と PI3K/Akt 経路のシグナルが RanBP2 と RanGAP1 を制御している可能性が示唆された (図 1)。
- (7) KC 特異的 LEDGF 過剰発現トランスジェニックマウスの作成に成功した。週齢による自然経過で乾癬様皮疹の発症はなかった。

#### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計19件)

Sugiura K, Kitoh T, Watanabe D, Muto M, Akiyama M Childhood-onset psoriatic arthritis in Down syndrome with psoriasis susceptibility variant CARD14 rs11652075. Rheumatology (Oxford) 2015;54(1):197-9.

Nakai N, <u>Sugiura K</u>, Akiyama M, Katoh N. Acute generalized exanthematous pustulosis caused by dihydrocodeine phosphate in a psoriasis vulgaris patient with a heterozygous IL36RN mutation. JAMA Dermatol 2015;151(3):311-5.

<u>Sugiura K</u>, Uchiyama R, Okuyama R, Akiyama M. Varicella zoster virus-induced generalized pustular psoriasis in a baby with heterozygous IL36RN mutation. J Am Acad Dermatol 2014;71(5):e216-8.

Sugiura K, Oiso N, Iinuma S, Matsuda H, Minami-Hori M, Ishida-Yamamoto A, Kawada A, Iizuka H, Akiyama M. IL36RN Mutations Underlie Impetigo Herpetiformis. J Invest Dermatol 2014;134(9):2472-4.

Sugiura K, Muro Y, Akiyama M. Solitary organizing pneumonia in systemic sclerosis mimicking lung adenocarcinoma. Arthritis Rheumatol 2014;66(9):2648.

<u>Sugiura K</u>. The genetic background of generalized pustular psoriasis: IL36RN mutations and CARD14 gain-of-function variants. J Dermatol Sci 2014;74(3): 187-92.

Sugiura K, Muto M, Akiyama M. CARD14

c.526G>C (p.Asp176His) is a Significant Risk Factor for Generalized Pustular Psoriasis with Psoriasis Vulgaris in the Japanese Cohort. J Invest Dermatol 2014;134(6):1755-7.

<u>Sugiura K</u>, Haruna K, Suga Y, Akiyama M. Generalized pustular psoriasis caused by deficiency of interleukin-36 receptor antagonist successfully treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis. J Eur Acad Dermatol Venereol 2014;28(12):1835-6.

Ogawa Y, Takeichi T, Kono M, Hamajima N, Yamamoto T, <u>Sugiura K</u>, Akiyama M. Revertant Mutation Releases Confined Lethal Mutation, Opening Pandora's Box: A Novel Genetic Pathogenesis. PLoS Genet 2014;10(5):e1004276.

Yasuda K, <u>Sugiura K</u>, Takeichi T, Ogawa Y, <u>Muro Y</u>, Akiyama M. Nuclear envelope localization of Ran-binding-protein 2 and Ran-GTPase-activating protein 1 in psoriatic epidermal keratinocytes. Exp Dermatol 2014;23(2):119-24.

Sugiura K, Shoda Y, Akiyama M. Generalized Pustular Psoriasis Triggered by Amoxicillin in Monozygotic Twins with Compound Heterozygous IL36RN Mutations: Comment on the Article by Navarini et al. J Invest Dermatol 2014;134(2):578-9.

Kono M, <u>Sugiura K</u>, Suganuma M, Hayashi M, Takama H, Suzuki T, Matsunaga K, Tomita Y, Akiyama M. Whole-exome sequencing identifies ADAM10 mutations as a cause of reticulate acropigmentation of Kitamura, a clinical entity distinct from Dowling-Degos disease. Hum Mol Genet 2013;22(17):3524-33.

Sugiura K, Takemoto A, Yamaguchi M, Takahashi H, Shoda Y, Mitsuma T, Tsuda K, Nishida E, Togawa Y, Nakajima K, Sakakibara A, Kawachi S, Shimizu M, Ito Y, Takeichi T, Kono M, Ogawa Y, Muro Y, Ishida-Yamamoto A, Sano S, Matsue H, Morita A, Mizutani H, Iizuka H, Muto M, Akiyama M. The Majority of Generalized Pustular Psoriasis without Psoriasis Vulgaris Is Caused by Deficiency of Interleukin-36 Receptor Antagonist. J Invest Dermatol 2013;133(11):2514-21.

<u>Sugiura K</u>. Unfolded protein response in keratinocytes: Impact on normal and abnormal keratinization. J Dermatol Sci 2013;69(3):181-6.

Muro Y, Sugiura K, Nakashima R, Mimori T, Akiyama M. Low prevalence of anti-DFS70/LEDGF antibodies in patients with dermatomyositis and with other systemic autoimmune rheumatic diseases J Rheumatol 2013;40(1):92-3.

Sugiura K, Takeichi T, Kono M, Ito Y, Ogawa Y, Muro Y, Akiyama M. Severe chilblain lupus is associated with heterozygous missense mutations of catalytic amino acids or their adjacent mutations in the exonuclease domains of 3' exonuclease 1. J Invest Dermatol 2012:132(12):2855-7.

Sugiura K, Takeichi T, Kono M, Shimomura Y, Ogawa Y, Muro Y, Akiyama M. A novel IL36RN/IL1F5 homozygous nonsense mutation, p.Arg10X, in a Japanese patient with adult-onset generalized pustular psoriasis Br J Dermatol 2012; 167(3):699-701.

Takeichi T, <u>Sugiura K</u>, <u>Muro Y</u>, Ogawa Y, Akiyama M. LEDGF/DFS70 activates the MK2/IL6/STAT3 pathway in HaCaT. J Dermatol Sci 2011 63: 203-5.

Watanabe K, <u>Muro Y</u>, <u>Sugiura K</u>, Tomita Y. IgE and IgG(4) autoantibodies against DFS70/LEDGF in atopic dermatitis. Autoimmunity 2011 44: 511-9.

# [学会発表](計1件)

<u>杉浦一充</u>. Familial generalized pustular psoriasis:第6回自己炎症性疾患研究会;2013年2月2日,ベルサール八重洲(東京都千代田区)

#### [その他]

名古屋大学研究シーズ集「無菌性の膿疱性疾患の病態解明と新規治療戦略の開拓」 http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/unite/jp/ detail/0000081.html

名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 汎発性膿疱性乾癬の病因を特定: 遺伝子検 査 で 的 確 な 診 断 が 可 能 に http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/public/nu \_research\_ja/highlights/detail/0000802. html

#### 6.研究組織

#### (1)研究代表者

杉浦 一充 (SUGIURA Kazumitsu)

名古屋大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号:70335032

# (2)研究分担者

室 慶直(MURO Yoshinao)

名古屋大学・大学院医学系研究科・准教授 研究者番号: 80270990